

第15回対話の場について

第15回

- 日時：2023年7月27日（木）18:30～
- 場所：漁村センター
- 出席者：委員14名、ファシリテーター5名、神恵内村役場、資源エネルギー庁、北海道経済産業局、北海道庁、NUMO

<対話のテーマ>

- ◇ 運営委員会の開催結果報告
- ◇ 放射線の基礎知識

運営委員会の開催結果報告

- ▶ 本日の「放射線の基礎知識」は、帝京大学客員教授の鈴木崇彦先生にご講演をお願いしたことを報告しました。
- ▶ 第16回は、「まちづくりに関する話題の振り返りと海外の事例紹介」、審議会の進み具合によっては「文献調査に関する状況報告」、これらをテーマにする方向性で検討中であることを報告しました。



「放射線の基礎知識」について(ポイント)

- ▶ 放射性物質は不安定で、安定になるために放射線を出します。その性質を「放射能を持っている」と言います。
- ▶ 放射線にはいくつかの種類があり、種類によって物を透過する力（透過力）が異なります【図1】。透過力の違いによって身体への影響の仕方が変わります。
- ▶ 私たちの身の回りには放射線が飛び交っています。また、身の回りや体の中にも放射性物質があり、そこから放射線が出ています！【図2】

図1

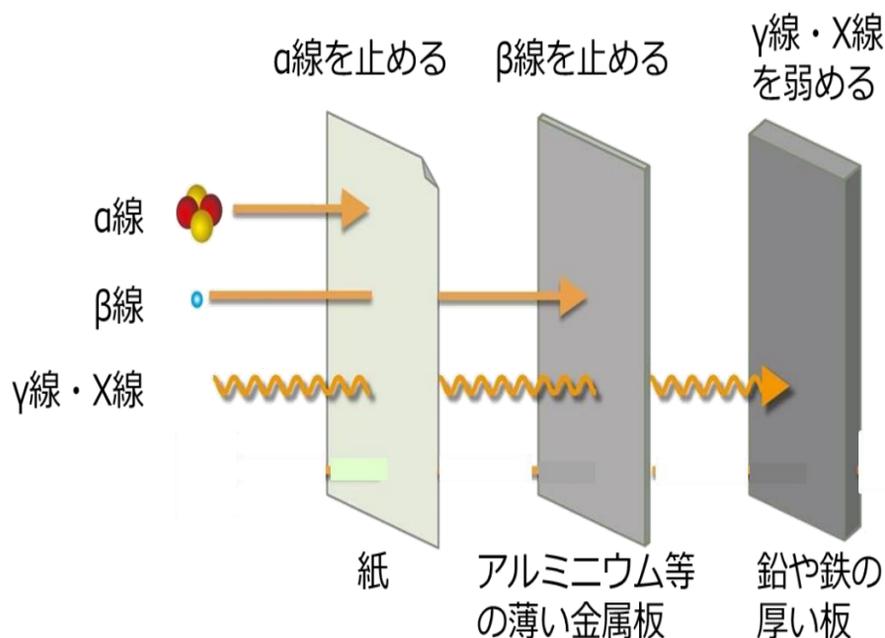
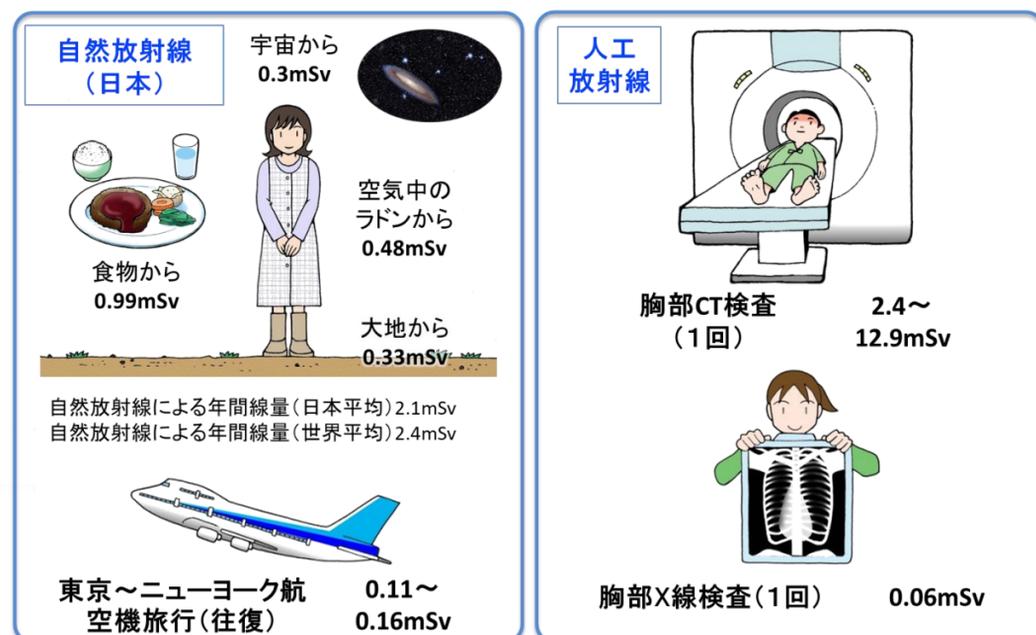


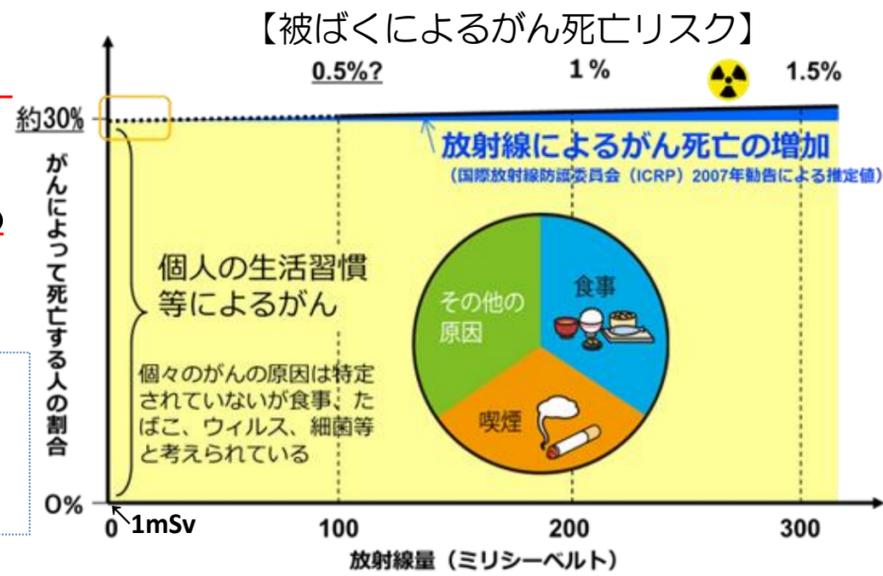
図2



- 個人の生活習慣（ストレス、喫煙、食生活等）によりガンで亡くなる割合は約30%です。
その上で仮に放射線を100mSvあびると0.5%ほど死亡確率が上昇すると考えられています。

Q. 放射線被ばくの将来世代への遺伝的影響は？

A. 被曝者の方の貴重なデータから、ヒトにおいては遺伝的影響が発生したという事実はありません。



- 放射線測定器を使って、身の回りの放射線を測ってみました！



※1 μSv (マイクロシーベルト) = 0.001mSv

- ・お使いの測定器はガンマ線を測定します。
- ・何も無くても放射線測定器が示す線量は0ではありません。
- ・測定した数値は一定ではありません。測定器ごとに、測定器の検出部に入ってきた放射線の数を数値に変えています。
- ・御影石、湯ノ花、舟艇塗料、カリ肥料など、身近なものからも放射線が出ています。

テーブルワークでの意見・質問

多くの中から一部を紹介！

Q. 赤ちゃんへの影響は？
A. 受精前に両親が被ばくしても、遺伝的な影響はない。胎児になってから母体が被ばくした場合は、影響が考えられる。

Q. CT検査の頻度はどの程度なら問題ないの？
A. 年に2~3回であれば大丈夫。

Q. 放射線って何？
A. 放射性物質が安定化するために出す粒子線、または電磁波のことである。

Q. 人の免疫力によって放射線の影響は変わってくるのか？
A. 変わってくる。確定的影響については、免疫力は関係ない。
※確定的影響は、同じ線量を多数の人が被ばくした際に1%の人に症状が現れる線量を「しきい値」といいます。

配付資料や映像は、NUMOホームページでご覧いただけます。

<https://www.numo.or.jp/>

当日の資料などについては、神恵内交流センターにおいても配布しております。より詳しい内容にご関心のある方は、神恵内交流センターまでお気軽にお問合せください。 電話番号:0135-67-7711(代表)